

茨城大、初の定例記者発表

大学の活動や研究成果を積極的にアピールしようと、茨城大（水戸市）は30日、初めての定例記者発表を行った。広報体制充実に向けた取り組みの一環で、4月に新設した広報室が中心となり、年4回程度、記者発表を行い情報を発信する。

初回の発表には池田幸雄学長が同席し「茨城大学には面白い研究がいろいろあり、多くの人に知ってもらいたい」と話した。

「面白い研究知って」

茨城大は、これまで水戸、日立（工学部）、阿見（農学部）の各キャンパスごとに行っていた情報発信を新年度から広報室に一元化。広報室長の小野寺淳教授は「茨城大は地域連携などに取り組んでいるが、十分に広報してこなかった。今後は大学のいい面をもっとアピールしていきたい」と話した。

初回は、農学部のバイオ燃料プロジェクトの活動発表や工学部の鈴木健仁助教の「安藤博記念学術奨励賞」受賞報告などがあった。